

上位アジア勢 シンガポール「7冠」

◆PISA2015年調査の上位20か国・地域

順位	科学的応用力		数学的応用力		読解力	
		得点		得点		得点
1	シンガポール	(3) 556	シンガポール	(2) 564	シンガポール	(3) 535
2	日本	(4) 538	香港	(3) 548	香港	(2) 527
3	エストニア	(6) 534	マカオ	(6) 544	カナダ	(9) 527
4	台湾	(13) 532	台湾	(4) 542	フィンランド	(6) 526
5	フィンランド	(5) 531	日本	(7) 532	アイルランド	(7) 521
6	マカオ	(17) 529	北京・上海・江蘇・広東	(1) 531	エストニア	(11) 519
7	カナダ	(10) 528	韓国	(5) 524	韓国	(5) 517
8	ベトナム	(8) 525	スイス	(9) 521	日本	(4) 516
9	香港	(2) 523	エストニア	(11) 520	ノルウェー	(22) 513
10	北京・上海・江蘇・広東	(1) 518	カナダ	(13) 516	ニュージーランド	(13) 509
11	韓国	(7) 516	オランダ	(10) 512	ドイツ	(20) 509
12	ニュージーランド	(18) 513	デンマーク	(22) 511	マカオ	(18) 509
13	スロベニア	(20) 513	フィンランド	(12) 511	ポーランド	(10) 506
14	オーストラリア	(16) 510	スロベニア	(21) 510	スロベニア	(38) 505
15	イギリス	(21) 509	ベルギー	(15) 507	オランダ	(15) 503
16	ドイツ	(12) 509	ドイツ	(16) 506	オーストラリア	(14) 503
17	オランダ	(14) 509	ポーランド	(14) 504	スウェーデン	(36) 500
18	スイス	(19) 506	アイルランド	(20) 504	デンマーク	(25) 500
19	アイルランド	(15) 503	ノルウェー	(30) 502	フランス	(21) 499
20	ベルギー	(24) 502	オーストリア	(18) 497	ベルギー	(16) 499
	OECD平均	493	OECD平均	490	OECD平均	493

※ベトナムは筆記型で調査を実施。()は前回2012年調査の順位。北京・上海・江蘇・広東は前回、上海のみ

◆TIMSS2015の各教科の上位5か国・地域と得点(11月29日発表)

順位	算数・数学				理科			
	小4		中2		小4		中2	
		得点		得点		得点		得点
1	シンガポール	(1) 618	シンガポール	(2) 621	シンガポール	(2) 590	シンガポール	(1) 597
2	香港	(3) 615	韓国	(1) 606	韓国	(1) 589	日本	(4) 571
3	韓国	(2) 608	台湾	(3) 599	日本	(4) 569	台湾	(2) 569
4	台湾	(4) 597	香港	(4) 594	ロシア	(5) 567	韓国	(3) 556
5	日本	(5) 593	日本	(5) 586	香港	(9) 557	スロベニア	(6) 551

※()は前回順位

調査に参加した72の国・地域別に成績をみると、上位にアジア勢が目立った。特に、科学的応用力、数学的応用力、読解力の3分野とも1位だったのは、シンガポール。11月末に発表された「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)」も、57の国・地域別では小学4年生、中学2年生の算数・数学、理科の全4分野で1位を独占し、今回のPISAと合わせ、「7冠」に輝いた。

◆習熟度別クラス

シンガポールの小学校

(6年)では、5年生から科目ごとに習熟度別クラスに分け、低学力層の成績の引き上げを進めている。算数や理科、英語などの卒業試験の成績によって中学校は「快速」(4年)、「普通学術」(5年)、「普通技術」(4年)の3コースに割り振るといふ。シンガポール教育省の職員だった昭和女子大のシムチュン・キャット准教授は「早い時期からの競争が好成績につながっている。ただ、進むコースによって希望職種に就けるかどうかが決まるため、保護者

や児童のストレスが問題になってきている」と話す。読解力、数学的応用力とも2位だった香港でも、低学力層の子どもが多い学校には財政上の支援などを行い、学力の底上げを図っている。言語教育や読書活動を重視し、教員研修にも力を入れているという。

◆国がICT推進

欧州では、バルト3国の一つ、エストニアが3分野とも上位10位に入った。国を挙げて情報通信技術(ICT)の整備を進めており、公立学校の8割は、教員、児童生徒、保護者がコンピュータ上で学習の進み具合や成績を確認したり、教員が宿題を出したりできる。外国の教育に詳しい聖心女子大の沢野由紀子教授は、日本が今回順位を下げた読解力に触れ、「エストニアなどでも子どもの読書量が少ないといった課題はあるが、図書館の蔵書を充実させたり電子書籍などのICTを活用したりして興味関心を高めようと努めている。参考になる取り組みだ」と指摘している。